

＜今週のお宝盤＞

受付期限：2026年4月22日

第9105番 ワルターの新世界



税込22000円

蘭フィリップス／835520AY／ハイファイ・ロゴ／1959年録音／ステレオ／G

ドヴォルザーク 交響曲第9（5）番『新世界』 コロムビア響／ワルター

米コロムビア原盤だが、オリジナルに劣らず入手難のフィリップス初期盤。

当時、アメリカの主要なオーケストラのほとんどがヨーロッパから来た指揮者によって占められていた。トスカニーニ初めセルにせよワルターにせよ、『新世界より』を振る時は彼らなりの郷愁を寄せただろう。ドヴォルザークの思いは誰もが痛いほど分かっていた。そのしみじみとした雰囲気はワルターほど強く訴えた人はいない。この2楽章にはそれが目一杯に詰まっている。勿論このレコードのオリジナルは米コロムビアのMS規格6eyesであり、双方入荷は稀であるが、コロムビア盤よりは桁違いにプレス数の少なかったフィリップス盤は極めて珍しい。これはジャケットに若干の汚れがあるが、プレスはしっかりしている。フィリップスHi-Fiレーベルとしては極美品と言って良いだろう。よく聴けばコロムビア盤の輝かしさには若干不足するが、根を張ったようにしっかりしたサウンドはフィリップス特有のものである。打楽器のメリハリある音も聴かれる。この作品の勢いがあり弾んだ気分もまた郷愁の一部分なのだろう。それらが溢れ出し乱轟になる一步手前のところで鮮やかにまとめる手並み。（山田）

第9106番 バックハウスのベートーヴェン



税込33000円

英デッカ／SXL6358／1968年録音／ラージ溝有り／ステレオ／G

ベートーヴェン ピアノ・ソナタ第9、11、20番 バックハウス（p）

3つのソナタの中で第20番が最初に作曲されている。音楽は古典派を抜けきっておらず、わが国ではソナチネ・アルバムに入れられ、初心者の稽古用となっている。だが、バックハウスの深味ある打鍵による演奏を聴くと、紛れもないベートーヴェン中期の前触れのようにも聴こえてくる。これがこの作品の本質であり、バックハウスにして初めて成し得た演奏なのだ。全集のバラ発売であるこのレコードは、いまや滅多に市場に出回らなくなった。しかも、このような良品に出会えることは滅多にない。この全集は私がデッカ・オリジナルに興味を持った直前から進行したので、たくさんの思い出がある。どれもが私にとっては“お宝”だった。バックハウスのベートーヴェンはすべてが輝いている。9番と11番はニックネームこそないが、ハイドンをさらに発展させた典型的なソナタであり、（メヌエットを含み）古典派に立脚しながらもベートーヴェンの力強さをそこかしこに伺わせる。確かにバックハウスの手に掛かると、芯のある響きは新時代を謳歌しているように聴こえてくる。こうした、いわゆる人気曲と呼ばれない作品の中から如何に大きなものを訴えてくるかが、バックハウスの偉大さである。バックハウスが今でもベートーヴェン弾きを代表するピニストとしていささかも影を失っていないことを、このレコードは明らかにしてくれる。こうしたものこそ持つことに誇りを感じさせるのだ。（山田）